

# 今年シングルスで飛躍した 柴原瑛菜インタビュー

前編

ダブルスの選手としての印象が強かった柴原瑛菜が、今年シングルスで結果を出した。初めて四大大会の全米オープン予選に挑戦し、見事に突破。本戦2回戦では、当時世界1位のイガ・シフィオンテクと対戦した。全米オープンの戦いを振り返ってもらった。

初めてシングルスで全米オープン本戦に出場。センターコートで当時世界1位のシフィオンテクと対戦した



Photo: Lexis Waminger

## 全米オープン 柴原瑛菜(217位)の結果

	スコア	対戦相手(国籍)	ランク
本戦2回戦	● 0-6,1-6	Iga Swiatek(POL)	1位
本戦1回戦	○ 6-3,4-6,7-6(6)	Daria Saville(AUS)	95位
予選決勝	○ 3-6,6-1,6-4	Arianne Hartono(NED)	148位
予選2回戦	○ 6-4,4-1 Ret.	Francesca Jones(GBR)	188位
予選1回戦	○ 6-0,2-6,6-4	Katarina Zavatska(UKR)	171位

## 出場できるか不確定のまま会場へ行き ギリギリ入れた全米オープン予選

——全米オープン予選出場が叶いました。初の四大大会はどうでしたか？

**柴原** すごく緊張しました。会場に着いた時は、まだ1番か2番アウトだったんです。ドローを作る前日に、ラストインしたと聞きました。その時はまだ緊張はなかったんですが、コートに入ったら段々と緊張が出てきて、予選1回戦の時は、テニスよりもどうやって緊張感をコントロールするかということの方に集中していました。思ったよりも良い試合ができて、逆に相手の方が緊張していたみたいです。でも、セカンドセットに入ると相手がだんだん良いプレーになって、それを乗り越えられて、その最初の勝利が大事でした。

——緊張をどうやってコントロールできたのですか？

**柴原** 一番大事だったのは呼吸ですね。息を整えて、深呼吸しながらやっていました。テニスはずっとやってきていることなので、それは自然と出せるだろうと。逆にテニスに集中しすぎたらもっと緊張するのかと思って、まずはちゃんと息をして深呼吸して整えました。

——予選決勝は相手も強い中、接戦を乗り越えましたね。

**柴原** 予選決勝の相手は良い結果を出していて、友達でもあったんです。だから、少しやりにくい環境ではありました。相手はすごく良いスタートを切って、私はうまくいっていませんでした。その試合には父の他にも杉山愛さんやJTAのスタッフさんもいて、コーチングしてもらっていて、急に戦略を変えることになりました。はじめはリズムに乗ったら強い相手なので、そのリズムを崩そうと考えていたのですが、相手のボールが良くてそれができていませんでした。そこで、「相手を動かせ」とアドバイスをされたんです。このままでは多分負けるから、やってみようと思って、やってみたらセカンドセットを取れました。

あと、その日はサービスの調子が良くなってフリーポイントがありませんでした。セット間に相手がトイレ休憩を取った時に、サービス練習をしたんです。そうしたら、ちょっとタイミングをつかめて、3セット目は自信を持って入れました。この勝利もすごくうれしかったです。

## ファイナル0-2ダウンからの挽回 接戦を勝ち切り本戦初勝利！

——本戦1回戦はダリア・サビルと3時間16分の接戦に勝利。第2セットを落とした後、勝ち切るプランが浮かんでいましたか？

**柴原** はい。1セットを取っても、相手はそこから何度も挽回している場面を見てきたので、まだだと思っていました。相手は全然ミスしなくなって、私がどんなに良いボールを打っても返ってくるようになったんです。3セットに入って0-2ダウンした時に、このままだと持っていかれると感じました。そこで、まず自分のリズムを探していこうと思ってやり始めたら、相手もだんだんミスしてくれるようになりました。

徐々に良いボールで決め切れるようになっていきましたが、キープはできてもなかなかブレイクできず、タイブレイクに入りました。今までの感じから、自分のサービスはキープできていたし、リターンでポイントを取れているから、大丈夫だろうと自信を持って入れました。その通りになって、最後は相手のダブルフォールトもあり、相手も緊張していたんだなと思いました。

——試合中にかなり冷静ですね。

**柴原** 試合はどうなるかわからないので、いつでも状況や展開に合わせてすぐ変えられるようにしたいと思っています。試合中は色々と考えてます。



# 柴原 瑛菜

Ena Shibahara

### PROFILE

1998年2月12日生まれ。アメリカ・カリフォルニア州出身。170cm、右利き。2021年東京五輪に青山修子と組んでダブルスに出場。22年全仏オープン混合ダブルス優勝。23年全豪オープン女子ダブルス準優勝。ダブルスの自己最高ランキングは4位（22年3月21日付）。24年はシングルスに集中し、548位だったランキングを132位（10月21日付）にまで上げた。

## センターコートに入る前に緊張マックス 世界1位の実力を実感する

——2回戦では世界1位のシフィオンテクとセンターコートで対戦しました。どうでしたか？

**柴原** レベルが違いました。あと、アーサーアッシュスタジアム（センターコート）で試合をするのも初めてで、その緊張感もありました。コートに入る前に通路があるんですが、いつも歩いている通路ですが、試合に入る時は誰も歩けないようにシャットダウンされているんです。気付いたら、私とシフィオンテクだけが、暗い中にある状態です。ずっと緊張感を整え続けていたんですが、その時はドキドキが止まりませんでした。

逆にコートに入ったら緊張感はなくなりアップの時もいいフィーリングでした。いつもは試合を始める時は自分のリズムを探して、そこから自分のプレーをしていくのですが、シフィオンテクは最初から100%で、まったく自分のリズムを取らせてもらえませんでした。その上、彼女はディフェンスからオフェンスにすぐに持っていきます。通常だと、私が良いボールを打って相手がディフェンスになったらどんどん押しつけていけるんですが、ディフェンスに持っていったとしても、すぐにオフェンスになって逆に私がディフェンスになっているという場面が多かったです。それが、トップ選手なんだと感じました。

——対戦できたことは、とってもプラスになるのでは？

**柴原** はいとてもいい経験でした。トップ選手に勝つには何が必要かがわかったので、その点を取り組んでいきたいと思っています。

——今後、強化していこうと考えていることは？

**柴原** やっぱりディフェンスからオフェンスに持っていくスキルを作ること。それができれば、トップ100位の選手にも勝ちやすくなると思うので、取り組んでいきたいです。

★次回はシングルスに集中する決意をしたことについて。

「いつでも状況や展開に合わせて、すぐ変えられるようにしたいと思っています」



# 第39回 テニス日本リーグが開幕!

前回、橋本総業ホールディングス女子チームが優勝し、橋本総業女子チームと男子チームが3位という成績を出した、テニス日本リーグが開幕する。1stステージは、横浜国際プールとブルボンビーンズドームの2会場で、2024年12月5日(木)～8日(日)にわたり行われる。近くの方はぜひ会場へ! YouTubeも配信されるのでチェック!



昨年度は橋本総業 HD 女子チームが優勝した

YouTube  
橋本総業HD男女



YouTube  
橋本総業女子



## 橋本総業HD男女スケジュール

会場/横浜国際プール  
神奈川県横浜市都筑区北山田7-3-1

12月5日(木) 9:30～

男子 対 ノアインドアステージ

12月6日(金) 9:10～

男子 対 明治安田生命  
女子 対 センコーグループ

12月7日(土) 9:10～

男子 対 MS&AD三井住友海上  
女子 対 MS&AD三井住友海上

12月8日(日) 9:10～

男子 対 伊予銀行  
女子 対 明治安田生命

## 橋本総業女子スケジュール

会場/ブルボンビーンズドーム  
兵庫県三木市志染町三津田1708

12月6日(金) 10:10～

女子 対 エームサービス

12月7日(土) 10:10～

女子 対 フクシマガリレイ

12月8日(日) 10:10～

女子 対 テニスユニバース



## 柴原 瑛菜

Ena Shibahara

WTA 500  
DOUBLES  
準優勝

WTA500  
日本・有明  
10月21日～10月27日  
ダブルス準優勝

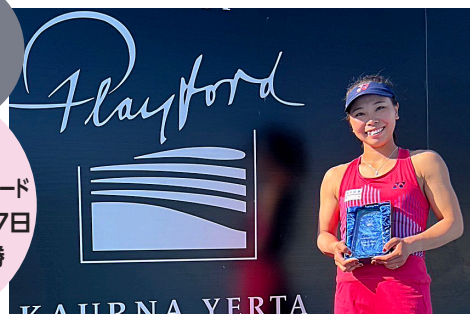


## 坂詰 姫野

Himeno Sakatsume

ITF W75  
SINGLES  
準優勝

ITF W75  
オーストラリア・プレイフォード  
10月21日～10月27日  
シングルス準優勝



## 小関 みちか

Michika Ozeki

ITF W35  
DOUBLES  
優勝

ITF W35  
ポルトガル・ローレ  
10月21日～10月27日  
ダブルス優勝



## 森崎 可南子

Kanako Morisaki

ITF W35  
DOUBLES  
優勝

ITF W35  
日本・牧之原  
10月28日～11月3日  
ダブルス優勝



## 小堀 桃子

Momoko Kobori

ITF W35  
DOUBLES  
準優勝

ITF W35  
日本・浜松  
11月4日～11月10日  
ダブルス準優勝



## 河内 一真

Kazuma Kawachi

ITF M15  
DOUBLES  
準優勝

ITF M15  
日本・柳川  
10月28日～11月3日  
ダブルス準優勝



## 渡邊 聖太

Seita Watanabe

ATP CH75  
DOUBLES  
優勝

ATP CH75  
日本・松山  
11月4日～11月10日  
ダブルス優勝



ITF W100  
DOUBLES  
優勝

ITF W100  
日本・高崎  
11月18日～11月24日  
ダブルス優勝

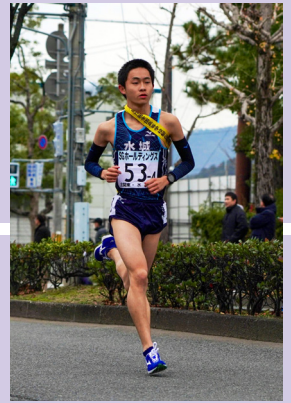




駅伝経験者

# RENのコラム

橋本総業の埼玉支店で勤務している須藤蓮が、  
学生時代に取り組んでいた駅伝の魅力をお伝えする！



チームワークと個人の挑戦を一体で体験できるのが魅力

## RENが伝える駅伝の魅力!

橋本総業埼玉支店勤務の須藤蓮です。今回は学生まで携わってきた駅伝の魅力をお伝えできればと思います。

駅伝を始めたのは高校の頃でした。中学校の時はバスケ部でしたが、小さい学校

だったため陸上部がなく、陸上大会や駅伝大会には各部から寄せ集めて出場していました。その練習をしている時に顧問の先生から「高校で駅伝をやってみないか」と言われ、当時、特に進路も考えていなかったの、とりあえずやってみようと思い、高校から駅伝部に入り、本格的に始めました。

誰でも駅伝部員にはなれるのですが、一定のタイムを切らなければ、正式な部員にはなれないというハードルがあり、越えられない選手は仮入部と言う形で所属することになります。大学は中央学院大学の駅伝部に4年間所属しました。

駅伝の魅力は、チームワークと個人の挑戦を一体で体験できることです。各ランナーは自己の限界に挑みながら、仲間と苦しい瞬間を乗り越え、達成感を得ることができます。

この駅伝という競技を通し自分は、目標に向かって仲間と共に努力する大切さを学びました。駅伝は一人で完結する競技では

なく、チーム全員の力が結果を左右します。だからこそ、自分の役割を果たしつつ、仲間を信じ、支え合うことの重要性を痛感しました。この経験は、社会に出た今でも、チームワークの本質や責任感を忘れずに仕事に取り組む基盤となっています。

現在はたまたま健康目的で走る程度で、全く競技とは関わりありませんが、来年の箱根駅伝には母校が出場します。最近はシード権から遠のいているのでシード獲得できるよう頑張ってください。

PROFILE

## 須藤 蓮

Ren Suto

2002年3月15日生まれ。茨城県出身。高校から駅伝始め、県高校駅伝では6区区間賞。全国高校駅伝出走。5000m14分15秒。10000m29分40秒。

母校の中央学院大学は、来年の箱根駅伝への出場が決まっている



T O P I C S

## 渡邊聖太(橋本総業HD)、ツアオ・チアイー(橋本総業)が全豪オープンの出場を確定!

11月26日～30日に「AO2025アジア・パシフィック WILDCARD プレーオフ」が中国・成都にて開催され、橋本総業ホールディングス所属の渡邊聖太が柚木武と組んだ男子ダブルスにて優勝、橋本総業所属のツアオ・チアイーが、タイのピアンタン・プリパーチと組んだ女子ダブルスで優勝し、四大大会、全豪オープン出場を決めた。

全豪オープンは、2025年1月12日～26日に開催される。



渡邊聖太(写真右)は柚木武と組みダブルスで優勝



ツアオ・チアイーもダブルスで全豪 OP 出場を決めた